

第2学年 生活科学習指導案

日時 令和4年9月21日(水)第5校時
対象 第2学年1組 31名
授業者 伊藤 麻衣子
会場 1階 2年1組教室

研究主題

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成
～キャリア教育を通して～

1 単元名

「作って ためして」

2 単元の目標

動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びを工夫したりすることができ、身近なものを使ってできる遊びのおもしろさ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具の準備や片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ちよく遊べることに気付き、友達と楽しみながら、遊びを創り出すことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、遊びおもしろさ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具の準備や片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ちよく遊べることに気付いている。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びが楽しくなるように工夫したりしている。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、みんなで楽しい遊びを創り出そうとしている。

4 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元で扱う内容は、学習指導要領第3章第2節内容(6)(8)に基づいて構成されている。

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫することができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしている。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、すすんで触れ合い交流しようとする。

本単元は、身近にあるものを使って動くおもちゃを作り、友達と遊んだり工夫を教え合ったりしながら、自分なりに改良をすることを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さを実感するとともに、遊び方を工夫しながらみんなで遊びを楽しむことをねらいとしている。

小単元「うごくおもちゃをつくろう」では、自分の作りたいおもちゃに合わせて必要な材料などを選んだり、組み合わせたりする。本校の児童の育てたい力の一つ「次のことを考えて行動する力」を育てるのに適した活動であると考え。また、友達と遊びながらおもちゃを改良したり、クラス全体で遊ぶためのルールや遊び方を話し合ったりする活動が何度も繰り返される。この活動を通して「聞く・伝える」力を伸ばしたり、友達との関わりを深めたりすることができる。また、自分の作ったおもちゃで友達と楽しく遊ぶことができた経験や友達からの称賛などが自分の成長に気付き、自信へとつながると考えている。

(2) 児童の実態

以下の項目で児童にアンケートをとった。その結果、工夫しておもちゃを作ることが「苦手」と答えた

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 工夫しておもちゃを作るのが好きですか。② 動くおもちゃを作ったことがありますか。③ 友達の話を聞くときに、相手の気持ちを考えようとしていますか。④ 友達と力を合わせて取り組んでいますか。⑤ 何かをするときに、順番を考えて取り組んでいますか。 | |
|--|--|

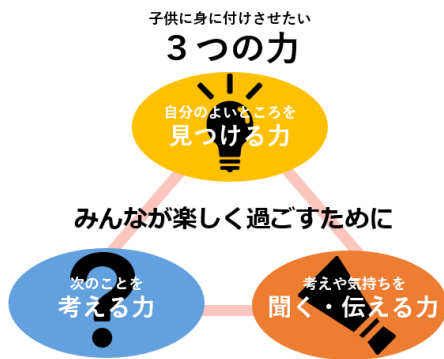
児童が未回答を含めて4人、「動くおもちゃを作ったことがない」と答えた児童が10人という結果だった。また、「相手の気持ちを考えて聞くこと」や「友達と力を合わせること」に関してはクラスの約半数がよく意識して取り組んでいると回答した。「順番を考えて行動すること」に関しては6割程度の児童がよく意識している。普段の学級の様子を見ていると、相手の気持ちを

考えた言動ができる児童は多いと感じる。一方で、その時、取り組むべきことに取り組めない、相手の気持ちを考えない言動を繰り返す児童も一定数いる。「おもちゃを作る」という好奇心を抱かせる題材を通し、友達と協力し合いながら、より良いものを作り上げられたという自信をもてるような工夫をしていきたい。

(3) 教師の願いと指導の工夫

低学年のキャリア教育を行うために、重要なことは一人一人の意欲をいかに引き出すかということであると考えた。そのために児童とのやり取り（対話やワークシート）を大切に、児童の思いを引き出したい。また、それぞれの活動での振り返りを大切に、次時の授業へつながっていくように工夫していきたい。また、この時期の児童たちは途中で行き詰ってしまう場面も多いので、教師や友達に相談することができるということも教えていきたい。わずかな成長や上達したことでも評価し、この学習を通して身に付いた力が学習全般にもつながっていくことを、学習を振り返ることで気付かせ、さらなる意欲へ広げていけるようにしたい。

5 研究主題「めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成」に迫るための手立て



教科とキャリア教育(身に付けさせたい力)をつなげるために、今の学習が自分のどの力を身に付けるために行っているのかを、児童が自覚できるように、教科のめあてとは別に、「見つける力」・「考える力」・「聞く・話す力」の掲示物を作り、黒板に貼ることで、児童自身も意識できるようにしていく。また、毎時間、そのめあてについての簡単な振り返りを入れることで、次時への見通しをもたせたい。

(1) 自分のおもちゃの改善点を見つけられる 「見つける力」

自分のおもちゃの改善点を見つけられるようにするために、友達のおもちゃと「比べる」ことを大切にしたい。その際、同じエネルギー（動かす力）で動くおもちゃ同士で遊ぶことで、「動かす力」に焦点を絞り、改善点を見付けやすくできると考えた。

(2) 友達への付箋交換 「聞く・伝える力」

友達とおもちゃで遊んだ後、付箋に書いて友達に書く活動を取り入れた。書くことで思いや考えを整理することができるとともに、友達同士認め合うことが「聞きたい・伝えたい」意欲にもつながると考えた。また、付箋だと形に残り、いつでも振り返ることができる。さらに、カードに「友達のおもちゃのよいところ」や「聞いてみたいこと」にすることで、友達からのアドバイスを前向きに聞く児童が育成されると考える。

6 単元計画 (全20時間)

		学習活動	評価規準
出 会 う	う ご か し て あ そ ぼ う ②	うごくおもちゃを思い出そう(1) ○これまでにおもちゃを作って遊んだ経験について想起する。	●キャリア教育の視点 【知】身近なものがいろいろな遊びに利用できることに気付いている。 ●おもちゃランドの説明を聞き、目的と見通しをもつことができる。(次のことを考える力) 【課題対応能力】 【思】素材の動きを調べたり、予想したり、友達と競ったりしながら、遊んでいる。 【主】何度も動きを試して、遊びを楽しくしようとしている。
		そざいであそぼう(1) ○事前に輪ゴムや磁石などの素材を集め、それらの素材でどんな遊びができるか予想する。 ○素材遊びをする。 それぞれの素材(ゴム、風、磁石、坂)を使うと、どのような動き(走る、回る、転がる)をするのか、遊びながらいろいろ試す。	
関 わ る	う ご く お も ち や を 作 ろ う ⑦	作りたいおもちゃの計画を立てよう(1) ○素材遊びをした経験をもとに、自分が作りたい動くおもちゃを作る見通しをたて計画書を作る。	【知】おもちゃが動く仕組み、材料の組み合わせに気付いている。 【思】おもちゃの動きを予想したり、確かめたり見直したりを繰り返しながら、おもちゃ作りをしている。 【主】友達と情報を共有して、自分のおもちゃをよりよくしたいという願いをもって作ろうとしている。
		うごくおもちゃをつくろう(2) ○計画書をもとに、用意した材料でおもちゃを作る。 みんなであそぼう(2) ○完成させて遊びのルールやマナーを決めて遊ぶ。 おもちゃをもっと楽しくしよう(1)本時 ○動くおもちゃを作って遊んだ活動を振り返る。 何をかんじたかな。(1) ○自分のおもちゃの改善点を考える。	
深 め る	パ ワ ー ア ッ プ	おもちゃをパワーアップさせよう(2) ○自分のおもちゃをパワーアップさせる。 おもちゃをもっとパワーアップさせよう(2) ○改善点を生かして、更におもちゃをパワーア	【知】おもちゃにかける力と動きの関係に気付いている。 【思】友達と比べたり、動きを繰り返し試したり、乗り物に見立てて飾りをつけたりしながら、おもちゃ




	<p>アップさせる。 ○パワーアップ大作戦を振り返る。</p>	<p>を改善するために使う材料や道具を選んでいる。 【主】 みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。 ●自分たちで課題を立て、解決に向けての活動や計画を立てることができる。（次のことを考える力） 【課題対応能力】 ●目的に沿って現状を振り返りながら課題把握、情報収集、整理、表現と主体的に行うことができる。（聞く・伝える力）【人間関係・社会形成能力】</p>
<p>広げる</p>	<p>おもちゃ 「おもちゃランド」のじゅんぴをしよう(2) ○クラスみんなで動くおもちゃで遊ぶ計画を立てる。 「おもちゃランド」を楽しもう(3) ○友達のおもちゃで遊んだり、工夫した点を教えてもらったりする。 「おもちゃランド」をふりかえろう(1) なにをかんじたかな(1) ○今までの活動を振り返る。</p>	<p>【思】 遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。 【主】 友達のおもちゃの良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして遊びを楽しんでいる。 【知】 自分と友達のおもちゃの違いや良さが分かり、粘り強く取り組んだ自分に気が付いている。 【思】 自分の取り組みや友達との関わり振り返り、伝え合っている。 ●単元を振り返り、今後の学習への意欲をもつことができる。（次のことを考える力） 【課題対応能力】 ●自分のよさや成長に気付き、自信をもつことができる。（自分のよいところを見つける力） 【自己理解・自己管理能力】</p>

7 本時

(1) 本時のねらい

- ①友達と情報を交換し合って自分が作ったおもちゃを見直し、自分のおもちゃをより良くしたいという思いをもつことができるようにする。
- ③自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の話最後まで聞いたりしながら、アドバイスを受け入れることができる。【キャリア教育のめあて】

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◇評価規準 ★研究主題に迫るための手だて
	<p>1. 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2. 学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">おもちゃをパワーアップさせよう</div> <p>3. よりよくするためにどうしたらいいか自分で考える。 ・前時に書かせた付箋を友達に渡す。</p> <p>4. おもちゃをよりよくするためにどうしたらいいかグループの友達と交流しながら考える。</p> <p>5. 話し合ったことを全体で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの実物やこれまでの活動写真などの掲示物を活用し、イメージしやすくする。 ・前時の振り返りカードを確認させる。 <p>●「見つける力」のカードを黒板に掲示し、本時で身に付ける力（改善点を見つける力）を意識させる。</p> <p>・パワーアップの視点が装飾に向かないよう、もっと〇〇の中に入る言葉の例を挙げておく。（丈夫・速い・遠い・高い・おもしろいなど）</p> <p>★前時にもらった付箋を改善案の参考にさせる。</p> <p style="text-align: right;"></p> <p>★同じ動力同士などのグループで話し合わせる。</p> <p style="text-align: right;"></p> <p>★改善策が見つからなかった児童はグループで一緒に考えさせる。</p> <p style="text-align: right;"></p> <p>◇【思】自分のおもちゃをより良くするために、友達と情報交換し、改善策を考えている。</p> <p>◇【主】友達のアドバイスを参考にしながら、改善策を見出している。</p> <p>・次の時間、実際に試してみようと意欲をもたせる。</p>

成果と課題

① 友達のおもちゃと比べる活動が、改善点を「見つける力」の育成に有効だったか。

成果

- ・ 同じ動力のグループにしたことで、お互いによいところを見つけて活動ができていた。
- ・ 「難しくしたい」など、おもちゃをどうしたいか自分の思いや願いを導入で押さえていたので、それをもとに改善点を見つけることができていた。
- ・ 事前に同じ動力の友達のおもちゃで遊んでいることによって、興味をもってアドバイスをしていた。
- ・ 友達と遊びながら、よりよくしようと改善する姿が見られた。

課題

- ・ 動力でのグループ編成だったため、話し合いが苦手な児童が集まったグループには、改善点を見付けるための声掛けをする必要がある。
- ・ 今回は実際のおもちゃを机の上に置いてなかったが、実物やもってきた残りの材料などがあると、パワーアップに使えるような材料に視点を向けることができる可能性がある。

② 付箋を交換する活動が、「聞く・伝える力」の育成に有効だったか。

成果

- ・ 「もっとこうしたい」と考えるときに、事前にもらった付箋の内容を書いている児童がいた。自分だけでは決められない児童にとっても有効だった。
- ・ 付箋に書かれていたことを、パワーアップの視点や方法として取り入れることができていた。
- ・ 本時のねらい通り、友達と意見を交換することでパワーアップさせようという意欲につながっていた。
- ・ 「相手がこうしたい」「相手のためにこうしてあげよう」と友達に寄り添う姿が見られた。
- ・ 付箋に書かれたことで、目で見ても、自分のよいところを見付けられていた。

課題

- ・ 付箋がなくても、お互いに伝え合うことで「聞く・伝える」ができていた。振り返りという意味では有効な手だてだったが、「聞く・伝える力」の育成のためには、付箋の必要性について検討していく必要がある。